



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(7月30～31日付現地各紙)

1. 日本による6月のイラン産原油輸入 (31日付テヘラン・タイムズ紙)

日本の財務省の発表によると、6月のイラン産原油輸入量が前月(5月)比60.5%増の日量17万389バレルとなった。日本による6月の原油輸入量は、前月比5.2%増の日量340万バレル。イラン産原油の輸入が前年比で減少(33.9%減)している分は、オマーン、ロシア、インドネシアなどに輸入先を代えて賄っている。

2. 最高指導者の発言 (30日付イラン紙)

ハーメネイー最高指導者は、国内の科学関係者らを集めた会合の中で、「常に続くイランの進歩を妨げるものは何もない。イランを取り巻く政治・経済圧力などは、イラン国民に対し何ら影響を与えるものではない。抵抗経済の創出は、外部からの経済圧力に立ち向かうための最良の策であり、この困難な時代をくぐり抜けるために真剣に取り組むべきである」と述べた。

3. SP11 テヘラン事務所の半閉鎖状態 (30日付シャルグ紙)

メフル通信によると、中国のCNPC(中国石油天然気集团公司, China National Petroleum Corporation)は、サウス・パールズ・ガス田フェーズ11(SP11)から30名全員を中国に帰国させ、テヘラン事務所を「半閉鎖」とした。予てからSP11およびヤーダーヴァラーン・プロジェクトの遅延が指摘され、石油省から期限を設けられ、これが守れない場合は契約を破棄するとの勧告を受けていた。シャルグ紙が、Pars Oil and Gas Company(サウス・パールズのオペレーター企業)総裁に対して、中国のSP11撤退に関しインタビューを行った所、石油省の広報部に問い合わせるよう述べた。他方、ガーセミー石油大臣は、中国は現在20のリグをヤーダーヴァラーンおよびアーザーデガーンに設置していると発言している。

4. 玉葱価格の高騰 (30日付ハムシャフリー紙)

物資不足により、玉葱の価格が3倍に上昇している。数日前まで1キロ当たり5,000～6,000リヤルであったものが、政府系青果センターにて7,000～10,000リヤルを記録、その他の店舗では14,000～18,000リヤルとなっている。関係者によると、マシュハド、エスファハーン、タブリーズからの玉葱供給が遅れているための一時的な価格上昇であり、玉葱が到着する2週間以内に価格は下落するだろうとしている。

## 5. 仏プジョーの赤字（30日付テヘラン・タイムズ紙）

仏プジョー・シトロエン・グループは、2012年1月～6月期のグループ営業収益が5.1%減の296億ユーロとなり、6億6,200万ユーロの最終赤字を記録したと2012年上半期報告書で明らかにした。赤字に陥った要因は、主に、イランへの部品輸出が減少したことによるとしている。

## 6. 金融汚職事件の判決（31日付テヘラン・タイムズ紙）

26億ドルの金融汚職事件に関する裁判の判決が下され、39人の被告のうち、4人に対し死刑判決、2名に終身刑判決、残りの被告らには懲役25年以下の判決が下されたと司法報道官が30日に述べた。